

## ニュージーランドの落葉果実事情(リンゴ)

米国農務省GAINレポート 2024年5月17日

これは米国農務省海外農業局ウェリントン事務所(ニュージーランド)が作成した「生鮮落葉果実半期報告書」の要約、背景及びリンゴの項(一部省略)を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

## 要約

2023/24販売年度(以下「年度」)のニュージーランドのリンゴ栽培面積は、2022/23年度開始時点の1万1千ヘクタールから大幅な減少となる9,200ヘクタールと予測される。これは、ホークスベイ、ギズボーン両地方の主要リンゴ産地に、大量の水、土砂、瓦礫及び風と地表の冠水をもたらしたサイクロン「ガブリエル」による被害の結果である。この地域の果樹園は、果樹が完全に破壊されたり、今後の生産に耐えられなくなったりするほどの深刻な被害を受けた。

当事務所は、2023/24年度のリンゴの生産量を48万トンと予測する。これは、エルニーニョ現象の気象パターン、季節労働力の確保の可能性、及び農業システムの革新によって予想される回復を反映している。さらに、前シーズンに悪天候のために減収した園地でも生産が回復している。

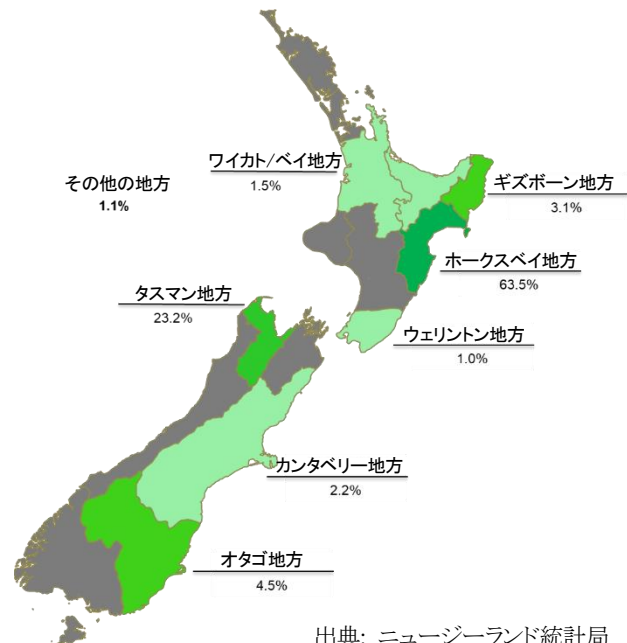
当事務所は、2023/24年度の生鮮リンゴの輸出量は、従来の量には及ばないものの、被害を被った昨年の水準(30万9,084トン)から回復すると予測する。ニュージーランドは、他の国と季節が逆の生産を行うことで優位性がある。その結果、市場の需要は引き続き堅調に推移すると見られる。輸出の優先度は、引き続きベトナム、台湾、中国等のアジア市場及び米国、英国が高くなるものと予想される。現在、被害を受けた果樹園の植え替えと融資金利の上昇に伴い、農場渡し生産者価格の収益性が将来の品種を選択する上で大きな要因となると見られる。そのため、業界では、ロッキット等の新しい品種が好まれ、ブレーバーン等の古い品種の栽培面積が減少すると予想される。

注：本レポートでは分割年を採用する。例：2022/23販売年度(年度)は、2023年1月から始まる暦年  
本レポートで、ニュージーランド(NZ)ドルと米ドルの為替レートは1.00NZドル=0.60米ドルである。

## 背景

ニュージーランドは、世界のリンゴ輸出上位10カ国の一つである。その気候と土壌はリンゴとナシの栽培に適している。ホークスベイ地方、ネルソン地方、オタゴ地方中部などの主要産地では、十分な冬の低温、暖かい春、夏の長い日照時間、雨が少なくなることなど、リンゴの栽培に必要な条件が整っている。これらの地域には果樹園を灌漑するための信頼できる水源もあり、その結果、ほとんどすべての商業的果樹園は灌漑に依存している。ニュージーランドでは、よく整備された港がリンゴとナシの産地の近くにある。リンゴの収穫期は1月に始まって6月に終わり、収穫の最盛期は3月から5月である。リンゴとナシの産地の分布を図1に示す。産地の大部分(全国の果樹本数のほぼ3分の2)がホークスベイ地方にある。

図1 ニュージーランドのリンゴとナシの産地



出典：ニュージーランド統計局

## サイクロン「ガブリエル」

ニュージーランドの主要な園芸地帯は、2023年のはじめに悪天候に見舞われた。その中でも最悪だったのがサイクロン「ガブリエル」である。政府は、サイクロン「ガブリエル」を、1968年以降に同国を襲った最悪の気象現象の1つと呼んだ。強烈な風雨により、大規模な土砂崩れや洪水が発生し、特にリンゴ産業では、果樹園やインフラが広範囲に破壊され、広大な地域に大量の土砂が堆積した。サイクロン「ガブリエル」は、ホ

ークスベイ、ギズボーン両地方の果樹園の面積の約半分と、この地域に物資を供給していたネーピア港に被害を与えた。この出来事は1年前に起こったにもかかわらず、その影響は国の産業に大きな衝撃を与えている。被害の査定では、ホークスベイ、ギズボーン両地方の生産者の最大50%が影響を受けたとされている。当事務所は、全国の生産量が前シーズンより14%少ないものと推定する。

## <リンゴ>

表1 ニュージーランドの生鮮リンゴの生産需供統計

| リンゴ(生鮮)<br>販売年度の始まり<br>ニュージーランド | 2021/2022 |         | 2022/2023 |         | 2023/2024 |         |
|---------------------------------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|---------|
|                                 | 2022年1月   |         | 2023年1月   |         | 2024年1月   |         |
|                                 | 農務省公式     | 今回推計値   | 農務省公式     | 今回推計値   | 農務省公式     | 今回推計値   |
| 栽培面積                            | 11,000    | 11,000  | 11,000    | 11,000  | 9,200     | 9,200   |
| 収穫面積                            | 10,300    | 10,300  | 8,900     | 8,900   | 9,000     | 9,000   |
| 商業的生産量                          | 510,000   | 510,000 | 440,000   | 440,000 | 460,000   | 480,000 |
| 非商業的生産量                         | 3,000     | 3,000   | 3,000     | 3,000   | 3,000     | 3,000   |
| 生産量合計                           | 513,000   | 513,000 | 443,000   | 443,000 | 463,000   | 483,000 |
| 輸入量                             | 100       | 25      | 100       | 154     | 100       | 300     |
| 総供給量                            | 513,100   | 513,025 | 443,100   | 443,154 | 463,100   | 483,300 |
| 国内消費量                           | 172,300   | 172,263 | 133,100   | 134,070 | 143,100   | 153,300 |
| 輸出货量                            | 340,800   | 340,762 | 310,000   | 309,084 | 320,000   | 330,000 |
| 総仕向量                            | 513,100   | 513,025 | 443,100   | 443,154 | 463,100   | 483,300 |

単位：ヘクタール、トン

## 栽培・収穫面積

### 2023/24年度

当事務所は、ニュージーランドの第一次産業省(MPI)の推計に従い、2023/24年度のリンゴの栽培面積を9,200ヘクタール、収穫面積を9千ヘクタールとする米国農務省の公式予測を維持する。これは、ホークスベイ、ギズボーン両地方の主要なリンゴ産地に、大量の水、土砂、瓦礫及び風と地表の冠水をもたらしたサイクロン「ガブリエル」による被害の結果である。この地域の果樹園は、果樹が完全に破壊されたり、今後の生産に耐えられなくなったりするほどの深刻な被害を受けた。

### - サイクロン「ガブリエル」からの復旧

ホークスベイ、ギズボーン両地方の生産者は、損傷した果樹園を復旧または修復するかどうかを決定する段階にある。リンゴやナシの果樹園を復旧するための推定コストは、苗木と植栽費用、樹体を支える構造物、灌漑システム、及び園地の整地のために、1ヘクタール当たり18万～25万NZドル(10万8千～15万米ドル)と莫大である。リンゴの苗木を得るために2～3年かかり、果樹が成木化するまでにさらに時間がかかる。将来的に回復しない可能性があるヘクタール数については不確実性が残っている。

### - 債務と金利の上昇

果樹園やその他の農業関連事業の再開に伴い、多くの生産者は銀行融資を必要とすると見られる。現在、ニュージーランドの農業部門が直面している大きな課題は、債務の返済である。これは、銀行に対する融資機関の金利の上昇によるもので、こうした状況は、ニュージーランド準備銀行(RBNZ)が公定歩合(OCR 米国の連邦資金利率に相当)をどのように設定するかにかかっている。RBNZは、国内のOCRを5.50%に固定しており、これはRBNZが世界金融危機を受けてOCRを改定した2008年11月以来の高い水準である。

RBNZによると、2024年2月時点での園芸事業に対する国内の銀行融資総額は79億NZドル(47億米ドル)である。2017年以降、園芸生産者への融資総額は年率(複利計算)11.5%で増加しており、一方、酪農、畜産、穀物農家向け融資を合わせた額は年率-0.6%で減少している。農業部門への融資のうち、84%は変動金利であり、OCRの上昇に伴い、営農コストが増加している。これが販売年度の残りの期間に及ぼす影響は、ビジネスでは債務の返済を優先するため、農場経営が新規の購入や営農の改善・革新に使用できる資本が少なくなるということである。

## 2022/23年度

当事務所は、2022/23年度の栽培面積を1万1千ヘクタール、収穫面積を8,900ヘクタールとする農務省の公式予測を維持する。サイクロン「ガブリエル」の襲来は、生産者が収穫前の果実を回収することがほとんど不可能なタイミングであった。生産者らは事後に、影響を受けていない果樹園や立ち入ることができる果樹園、果実が回収できる果樹の収穫を行うことに注意を払った。当事務所は、業界関係者からの情報に基づき、園地の約20%が破壊されたか、または土砂に埋まって近づけないために収穫されなかったと推定する。

タスマン、カンタベリー、オタゴなど、ニュージーランドの他のリンゴ産地は、ホークスベイやギズボーンほどには影響を受けなかった。産地では、完全に復活した認定季節雇用主(RSE)制度を活用して収穫が行なわれた。

## 生産

### 2023/24年度

当事務所は、2023/24年度の生産量予測を、農務省の公式数値よりも2万トン多い48万トンに引き上げる。これは、エルニーニョ現象の気象パターン、季節労働力の確保の可能性、及び農業システムの革新によって予想される回復を反映している。さらに、前シーズンに悪天候のために減収した園地でも、生産が回復している。業界関係者の報告によると、2023/24年度産の受粉と着果の時期である2023年春(9~11月頃)の気象条件は概ね良好であった。昨年の気象現象の影響を受けた果樹の回復が収穫にどのように影響するかについては、依然として慎重な見方がある。同報告によれば、収量は過去2年よりも高いということである。しかし、収穫間際の非常に乾燥した状態により、果実の大きさが課題となっている。

#### - 季節労働力の利用可能性

過去のシーズンにはコロナ禍に伴う政府の国境管理によって外国人労働者が制限されたため、果実を収穫する労働力の確保が国内の園芸作物の収量に大きな影響を与えた。今シーズンは、梱包施設での自動化が進んで必要な労働力が削減されていることもあり、梱包施設には十分な人員が配置されているとの報告がある。ニュージーランドの園芸部門は、通常、国内の季節労働者、ワーキングホリデー旅行者(バックパッカー)、及び認定季節雇用主(RSE)制度の3つの分野から労働力を調達している。

RSE制度は、園芸・ブドウ栽培業界で国内の労働者が足りない場合に、季節労働のために海外から労働者を募集することを認める政府の政策である。これらの労働者は通常、太平洋の国々から来ており、リンゴの収穫労働に従事している。2022年9月に2022/23年度シーズンの上限が1万6千人から1万9千人に引き上げられた。ニュージーランドでは2023年10月の総選挙により政権交代が起これ、次期政権は選挙に先立ち、5年間でさらに上限を引き上げ、年間3万8千人とする方針を発表した。

#### - エルニーニョ現象

国立水・大気研究所(NIWA)の科学者達は、過去3年間のラニーニャ現象の後にエルニーニョ現象が発生すると予測している。エルニーニョ現象の間、ニュージーランドでは夏に西風が強くなったり、頻繁に吹いたりする傾向があり、東部では乾燥し、西部では雨が多くなる可能性がある。図4(省略)は、2024年4月時点の過去の平均に対する全国の土壌水分の変動を示している。商業的果樹園の大半が灌漑を利用しているため、水の供給が制限されない限り、少雨の影響は懸念されない。しかし、乾燥した風の強い条件では蒸発散が増加し、果実の肥大のための水分を維持することが困難になる。

#### - イノベーションとバイオテクノロジー

近年、多くの果樹園や梱包施設は技術的に進歩し、労働力をより効果的に管理するための自動化に多額の投資を行っている。その他のイノベーションは、意思決定と果実の品質管理を改善することを目的としている。梱包施設は、選別用のカメラ技術と、梱包・積み上げ・パレット積み用のロボット工学に投資している。生産者は近年、果樹園での単調な重労働を緩和し、より効率的にするためのプラットフォーム技術に投資している。

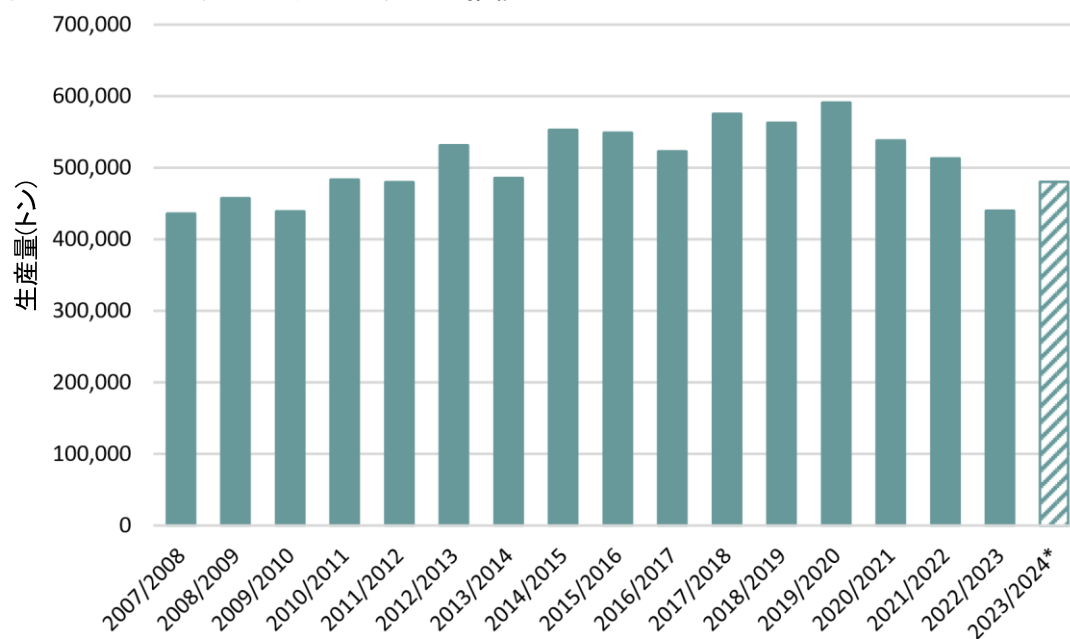
新政権は選挙に先立ち、最近までニュージーランドでバイオテクノロジーを禁止していた法律を改正する

意向を表明した。政策文書「[バイオテクノロジーの活用](#)」では、リンゴ産業の回復のための潜在的な利益を強調する具体的な引用がされている。この文書はまた、果樹が完全な商業生産に到達するまでの期間を数年間短縮する進行中の研究も強調している。新政権がバイオテクノロジーの規制を緩和する意欲を維持しているという報告はあるが、これまでのところ法令に変更は加えられていない。

## 2022/23年度

当事務所は、2022/23年度の推定生産量を、農務省の公式推定値である44万トンに沿ったものと結論付ける。これは、前述のサイクロン「ガブリエル」の影響によるものである。対照的に、南島のほとんどの地域では良好な生育条件が見られ、ネルソン・タスマン地方(リンゴとナシの栽培面積の23%を占める)では、2022/23年度の生育条件が良好で、高品質な果実の収量が増加した。全国の合計生産量は、残念ながら2007/08年度以来となる15年ぶりの低水準となった(図5)。

図5 ニュージーランドのリンゴ生産量の推移



出典：農務省公式推計、\*は当事務所の予測

## 貿易(輸出)

### 2023/24年度

当事務所は、2023/24年度の輸出量を33万トンと予測する。従来の輸出量には遠く及ばないものの、被害からの回復を示している。2023/24年度の最初の3カ月間のリンゴ輸出量は、前年同期比で37%増加した(表2)。これは、生産とインフラの回復を示しており、ネーピア港からの輸出量は前年比31%増加した。

表2 ニュージーランドのリンゴ輸出統計

| 輸出先国 | 輸出量(トン) 暦年 |         |         |         |         | 1月~3月  |        | 増減率     |
|------|------------|---------|---------|---------|---------|--------|--------|---------|
|      | 2019       | 2020    | 2021    | 2022    | 2023    | 2023   | 2024   |         |
| 世界合計 | 390,942    | 400,397 | 355,799 | 340,762 | 309,044 | 38,688 | 53,100 | 37.25%  |
| ベトナム | 25,874     | 32,157  | 33,677  | 47,223  | 44,743  | 5,195  | 5,763  | 10.93%  |
| 中国   | 45,015     | 38,098  | 35,423  | 53,304  | 41,954  | 9,629  | 11,954 | 24.15%  |
| 台湾   | 20,858     | 26,596  | 29,135  | 31,183  | 28,984  | 3,010  | 2,731  | -9.27%  |
| 米国   | 33,883     | 28,379  | 24,433  | 23,949  | 26,239  | 815    | 828    | 1.60%   |
| タイ   | 32,890     | 23,501  | 20,940  | 22,486  | 22,926  | 3,011  | 4,618  | 53.37%  |
| 英国   | 43,299     | 39,569  | 32,549  | 21,892  | 22,241  | 970    | 1,842  | 89.90%  |
| インド  | 17,068     | 22,163  | 28,148  | 18,074  | 19,314  | 1,870  | 10,377 | 454.92% |
| EU   | 51,846     | 53,183  | 43,007  | 35,042  | 30,789  | 1,876  | 2,839  | 51.33%  |
| その他  | 120,209    | 136,751 | 108,487 | 87,609  | 71,854  | 12,312 | 12,148 | -1.33%  |

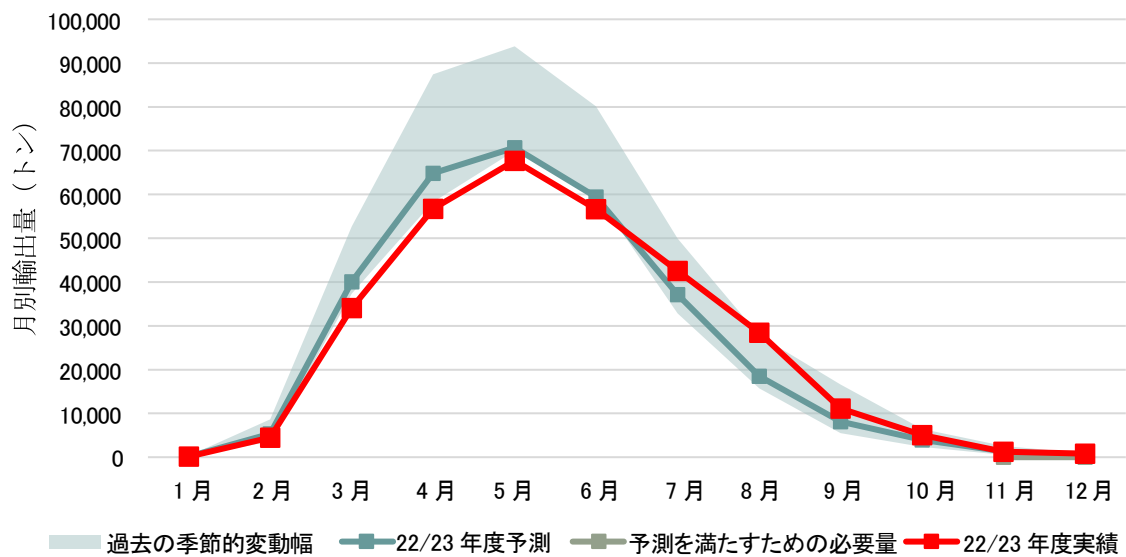
出典：Trade Data Monitor LLC

ニュージーランドの他国とは季節が逆の果実生産の結果、市場の需要は堅調に推移すると予想されており、輸出の優先度はベトナム、タイ、中国などのアジア市場が顕著に高くなっている。今年の第1四半期には、インドがニュージーランドにとって2番目に大きな輸出先となり、重要な成長市場となった。

### 2022/23年度

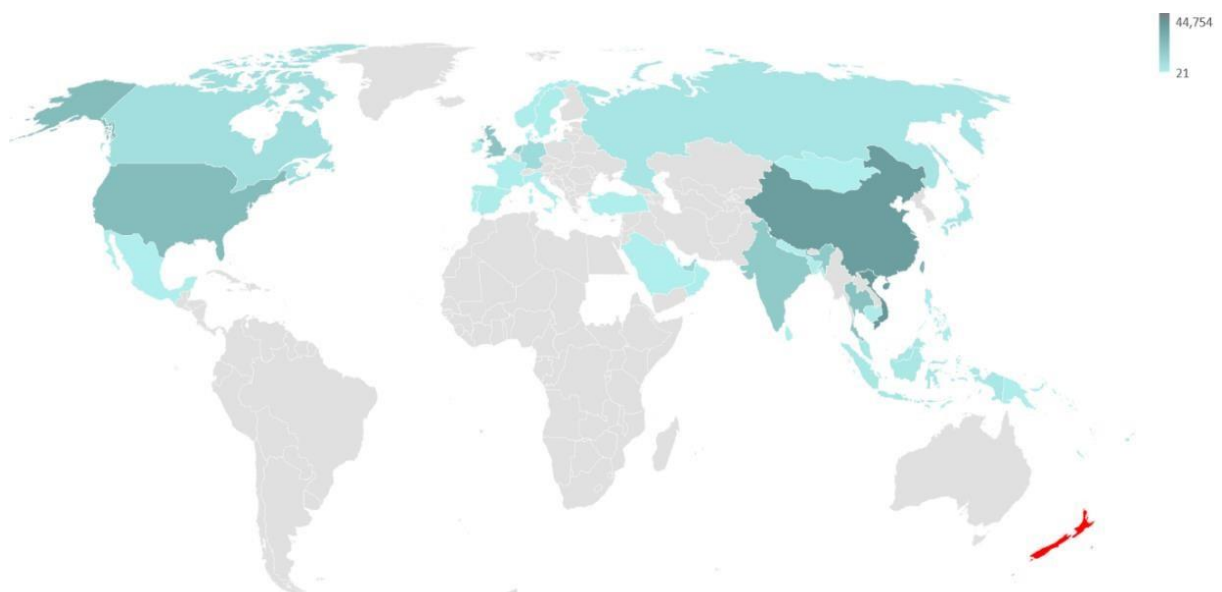
2022/23年度の輸出量は、農務省の公式予測31万トンに対して30万9,084トンで終了した(図8)。ニュージーランド産リンゴ及びナシの輸出可能量の減少の影響を受け、アジア市場、特にベトナム(14.5%)、中国(13.6%)、台湾(9.4%)で強い需要があったと業界筋はコメントしている。しかし、サイクロン「ガブリエル」が悪影響を及ぼし、輸出は2012/13年度以来の低水準となった。ニュージーランド統計局は、リンゴの商業的栽培面積が1千ヘクタール減少したと伝えている。

図8 ニュージーランドの2023年の月別リンゴ輸出量



出典: Trade Data Monitor LLC

図9 ニュージーランド産リンゴの輸出先国(2023年の数量)



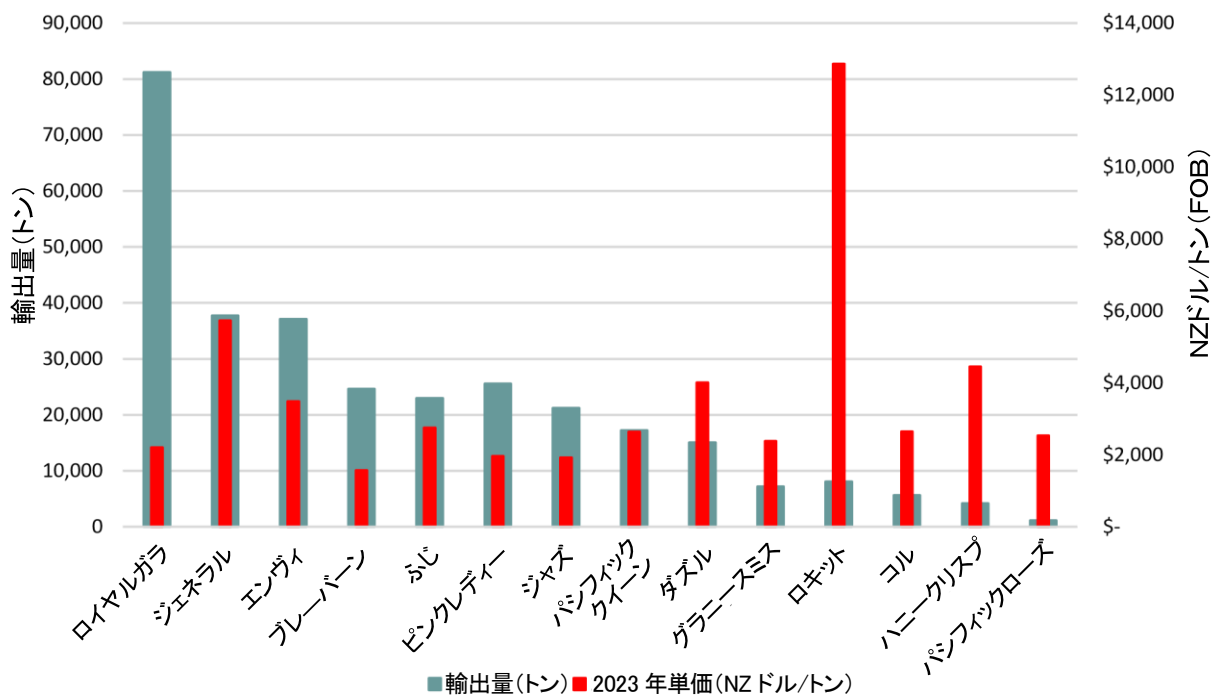
出典: Trade Data Monitor LLC

輸出量は前年比で約10%減少したものの、1トン当たりの平均単価は7%以上上昇し、1トン当たり2,805 NZドル(1,683米ドル)となった。単価の上昇は、輸出量の減少の影響を和らげた。しかし、第一次産業省(MPI)が報告したとおり、世界的な投入資材のインフレの影響も受けた生産コストの上昇により、リンゴ輸出の利益率は縮小した。

過去5年間、ネーピア港は世界市場へのリンゴ輸出の61%を占める主要港であった。2022/23年度には輸出港に大きな変化があり、ネルソン港とタウランガ港の両方でリンゴの輸出量が前年比で35%増加し、ネーピア港からの輸出量は前年比で28%減少した。

品種別では、ロイヤルガラが2022/23年度の輸出で最多の品種であった。しかし、ハニークリスプ、ダズル、特にロケットなどの品種の輸出需要の増加により、トン当たりの単価が上昇した(図10)。生産者からのコメントによると、現在進められている損傷した果樹園の改植と金利の上昇により、農場渡し価格の収益性が将来の品種の選択における重要な要素になると見られる。その結果、業界ではすでにブレイバーン等の品種の栽培面積が減少しており、2011/12年度には国内栽培面積の22%を占めていた同品種は、2021/22年にはわずか8%となった。

図10 ニュージーランドのリンゴ輸出 品種及び単価



出典: Trade Data Monitor LLC